

## IIW2022 東京大会における若手イベント報告

委員長 鴫田 駿（東北大学）

### Report of the Young Professional Events in IIW2022

by TOKITA Shun

#### はじめに

2022年7月17日～22日に東京で行われた The 75<sup>th</sup> IIW Annual Assembly and International Conference において、Young Professionals（35歳以下の参加者）向けのイベントが複数開催されました。若手の会としては、Local Organizing Committee の Subcommittee on Event（行事部会）に筆者が参加させていただくとともに、若手の会運営委員の先生方に「IIW2022 東京大会 YP イベント担当」をご担当いただき、これらのイベントの企画・運営を行いました。それぞれのイベントの詳細について、この場を借りてご報告いたします。

#### 1. International Conference における特別セッション

7月18日に行われた International Conference において、若手の会企画による特別セッション「Special Session for Young Professionals」を以下の概要のとおり開催しました。「Special Session for Young Professionals」

招待講演：

荻野 陽輔 氏（大阪大学）

Mitchell Grams 氏（アルバータ大学）

Titinan Methong 氏（モンクット王工科大学トンブリー校）

パネルディスカッション：

「Discussion on the Future of the IIW」

招待講演では3人の招待講演者からそれぞれの若手活動の状況とご自身の研究内容の二部構成でご講演いただきました。普段の研究発表ではわからない各国の若手による横のつながりを知ることができ、大変興味深く拝聴いたしました。

つぎに、招待講演者の皆様をパネラーとして、「Discussion on the Future of the IIW」というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、「国内外でどのような若手ネットワーキング活動をしています

か?」、「国際的な若手ネットワーキング活動において何が課題だと考えていますか?」、「国際的な若手ネットワーキング活動を促進するため、IIWにはどのような支援を期待しますか?」といった質問について、パネラーのご意見をもとに議論を行いました。

溶接・接合に対する社会のニーズや温度感には国ごとに少し差があるものの、いずれの国においても次世代の人材の獲得や育成に課題があることがわかりました。特に、大学や大学院で溶接・接合を学んだ学生たちが就職を機に分野を離れてしまったり、社会人としての新たな横のつながりを作ることの苦労しているという現状が共有され、Young Professional によるネットワーキングの充実化の重要性が再確認されました。

国際交流に関しては、やはり対面での交流が重要であることが確認された一方で、いずれのコミュニティにおいても渡航費など費用面で大きな障壁があることが共有されました。今回のような若手同士のセッションや研究会を重ねて若手同士のコミュニティを強く大きくすることで、さらなる支援を続けていけるような枠組みを創ることが理想的な展望であると議論されました。



特別セッションの登壇者（左から荻野先生、Dr. Grams, Dr. Methong, 筆者）

## 2. International Conference パネルディスカッション

上記の Special Session の後に行われた International Conference 全体のパネルディスカッションに、大阪大学の庄司 博人 氏がパネラーとして登壇されました。このパネルディスカッション全体のテーマは「What's WUs & What's Goal of WUs for the Future IIW」で、庄司先生は「Proposal from Special Session for YP」として、若手の Special Session における議論をフィードバックしていただきました。IIW における特徴的な会議構造である Working Unit のあり方などにも踏み込んだ関連な意見交換が行われました。

## 3. Young Professional Ice-Breaking Session

7月17日に行われた Young Professional Ice-Breaking Session の企画・運営を担当いたしました。Ice-Breaking は「緊張をほぐす・打ち解ける」という意味で、若手の参加者同士が自己紹介などを通じて打ち解けることが目的のセッションです。今年は図のような質問シートを参加者全員に配布し、ほかの参加者の回答を10人以上集めた方にはポストカードをプレゼントする、という企画を行いました。サンドイッチなどの軽食を Lunch Box として用意いたしました。感染対策として会場を飲食スペースと交流スペースに分割し、飲食スペースでは黙食にご協力いただけるようお願いいたしました。

今回の IIW に参加する YP の半分以上ははじめての参加ということで、このイベントにも多くの方が参加し、交流を深めている様子がみられました。

- ① What is your name?
- ② What organization do you belong to?
- ③ What is your area of expertise?
- ④ What do you do on your days off?

①	①	①
②	②	②
③	③	③
④	④	④
①	①	①
②	②	②
③	③	③
④	④	④
①	①	①
②	②	②
③	③	③
④	④	④

YP Ice-Breaking で配布した質問カード



YP Ice-Breaking の参加者

## 4. Young Professional Evening

7月19日に行われた Young Professional Evening の企画・運営を担当いたしました。YP Evening は若手同士の親睦を深めることを目的とした懇親会で、例年開催国の雰囲気に合わせてレクリエーションが行われています。今回のレクリエーションは「日本の遊び」をテーマとしており、伝統的な遊びである独楽回し、けん玉、だるま落としと、世界中に普及している日本のゲーム（マリオカート、太鼓の達人）を用意いたしました。参加者同士の交流を促すため、参加者に5,6人ずつのチームを作ってもらい、各競技のハイスコアの合計を競うチーム対抗戦といたしました。感染症対策との両立を図るため、YP Ice-Breaking と同様に会場を飲食スペースと交流スペースに分け、飲食をしながら参加者同士が接触することの無いようにご協力いただきました。YP Ice-Breaking と同様に多くの参加があり、用意したレクリエーションをチームで楽しんでいる様子がみられました。特に伝統的な遊びは参加者の「エンジニア魂」をくすぐるのか、真剣な表情で独楽のひもの巻き方やダルマ落としの叩き方を研究している参加者も多く見られました。



YP Evening でのレクリエーションの様子

## おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの対面開催となった IIW 年次大会では、参加者間の交流と感染対策の両立という難しい状況のなか、充実した若手イベントを企画することができました。当日ご挨拶をいただきました平田好則先生、Dr. Sorin Keller, Dr. Ernest Levert (代読: Tamas Toth), Dr. Stephan Egerland, Dr. Mitchell Grams に深く御礼申し上げます。また、ソーシャルディスタンスを維持できる広大な会場の確保から当日準備まで力強いご支援をいただきました、行事部会をはじめとする IIW 東京大会実行委員会、ならびに IIW 事務局の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。お忙しいなかお手伝いいただきました若手の会 YP イベント担当の荻野先生、庄司先生、山下先生、古免先生、山本先生にも、この場をお借りして御礼申し上げます。今回のイベントを通じて得た新たなつながりを国際交流活動へ発展できるよう尽力してまいりますので、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上